

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: http://www.konbukuroike.com

2023年11月

第115号

主な予定

11月9日(木)

9:55~10:40

柏市観光協会主催「市内見学バスツアー」(21名)

11月17日(金)

9:20~10:30

旧吉田家住宅歴史公園(10名)

きのこ観察会

川瀬 美幸

- 実施日時：2023年10月15日(日) 午前10時~正午まで
- 当日の天気(10時)：14.2°C / 雨 5.5 mm / 風速 北北東 2.5m/s
- 講師：A班 小泉敏彦先生 B班 根田仁先生
- 参加者：一般6名(荒天のため、調査協力者のみ)
- NPO 14名

毎年恒例、10月第三日曜日の「こんぶくろ池きのこ観察会」。23年間継続している観察会で多少の雨でも継続してきた経緯もあり、今回も小雨実施の予定で準備をしてきました。

きのこ観察エリアではNPOのメンバーが観察会に向けて草刈りを実施。また、下見も数回行い観察エリアの落枝やスズメバチなどの危険が無いか、など念入りに見回りを行いました。

しかし、天気予報で観察会当日が雨予報!!しかも雨量も風も強くなるということ・・・やむなく一般参加の方には前日にお断りの連絡を入れて、NPOと講師、調査協力者のみで実施する事に決めました。当日は雨の中、20名ほどの参加者は雨対策をバッチリして観察会に挑みました。





最近のきのこ観察会では、子どもの参加も多かったので、誰にでも分かりやすいきのこの説明をなるべく心がけていましたが、今年は菌類に詳しい方や大学院生も調査に加わったので、観察会前に行った座学ではより詳しい内容で先生方に解説していただきました。

こんぶくろの森では、近年ナラ枯れの被害が増えている状況ですが、伐採木の跡取りとなる木を実生から育て植栽をしたり、森の中で芽生えた幼木のまわりを草刈りしたりと、次の世代に引き継ぐ森を皆で模索し、保全に取り組んでいるところです。

講師の先生方からは、幼木の生育に必要な菌根菌のお話があり、菌感染のタイミング、植樹の時期、森のどの場所に植樹すればよく育つか、など条件を変えて実施してみるのもいい、という提案がありました。

ちなみに、樹木と共生する菌根菌とは、細い菌糸で樹木の根に絡みつき、土壌内に網の目のように張り巡らした菌糸からリンや窒素などを木の根に送り、樹木からは光合成で作られた栄養を木の根を通じていただく、という生き方の菌類です。今回の観察会では、雨の中とても大きくて美しい菌根菌のドクツルタケに会えました。（ドクツルタケは広葉樹、針葉樹どちらの林床にも発生するそうです）

また、硬いきのこ（硬質菌類）にとっても詳しい千葉菌類談話会所属の中島淳志さんが今回参加されて、今まで見落としがちだった枯木や、落ち枝にへばり付いて発生するような菌類もたくさん採集できました。これらのきのこ達は非常に硬い木の成分を分解することが可能で、実際にきのこが発生した木は、手に持つと軽くて中身がスカスカしているものが多かったです。

このように木を分解する菌類が木材腐朽菌と呼ばれ、ナラ枯れの被害を受けた樹木にも現在多く発生している状況です。猛毒のカエンタケは今年発見されませんでした。木材腐朽菌から栄養をとる菌類とされているので、今後も継続的な観察をして、注意をしていきたいと思えます。

以下、参加した大学院生からの感想です。

【比較的開発のすすみつつあるように見える柏の葉周辺で、これだけの自然が保全され、残されていることに以前から驚いておりましたが、今回参加されていた方々の菌類や自然、ひいては生物全体に対する思いがこれらの環境を守っていると感じ、自然環境とのかかわり方について深く考えさせられる良い経験ができました。】



結局、観察会中雨は強くなるばかり・・・最後に皆で集合写真を撮影する頃になり、やっと小雨になってきました。しかし、雨が降ったおかげでNPOにとっては座学や質問タイム満載の充実した内容の観察会になりました。でも、来年はどうか晴れますように！！

千葉大学園芸学部を訪れて

橋本谷 弘司



千葉大学園芸学部旧正門

先日、会員有志が当園のアドバイザーのひとりである、千葉大学の小林達明教授のご厚意で千葉大学園芸学部の図書館と庭園をご案内して頂きました。

千葉大学園芸学部は明治42（1909）年4月に「千葉県立園芸専門学校」として創立され幾度かの変遷を得て、昭和24（1949）年5月に「千葉大学園芸学部」となり今日に至っています。

図書館には、古い時代の希少な本や研究に必要な専門書をはじめ沢山の本が所蔵されています。そのうちの何点かを紹介しますと、大正5（1916）年に牧野富太郎が立ち上げた

「植物研究雑誌」の第一号にはチョコレートの標題で、チョコレートノキ別名カカオノキと記載された植物画と解説文が記載されています。この雑誌は、ある時から漢方薬の津村順天堂の支援を得て継続され、現在は隔月で刊行されています。

「原色日本菌類図鑑」は同校の専任教授で、日本の菌類分類学の草分けである川村清一の著であり、同キャンパスで採取された標本の彩色画が多数収録されています。

牧野は「植物一日一題」の中で、川村は写生画が巧みでキノコの着色図版においては独壇場であったことを述懐しています。

また、「分類学の父」と呼ばれるリンネの弟子カール・ツンベルクが編纂した「日本植物誌」、シーボルトが編纂した「日本植物誌」などの蔵書も見せて頂きました。これらの書籍は百年以上の歴史の賜物であり、貴重な文化的な資産であると感じました。

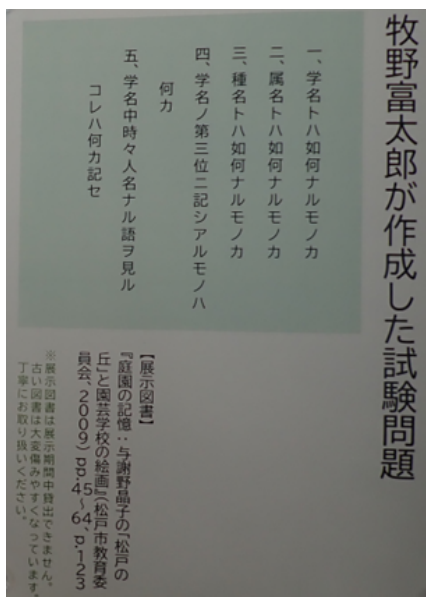
図書館内に「牧野富太郎が作成した試験問題」のタイトルのポスターが掲示されていました。牧野富太郎は東京大学の助手を免じられた後、明治44（1911）年4月から大正3（1914）年1月までの3年弱（49歳から52歳）、千葉大学（当時の千葉県立園芸専門学校）の講師として「植物学、実験」の科目を担当していました。試験問題の解答は記載されていないのでみなさんで考えてください。

図書館の次は校内を散策しました。明治42（1909）年に同校の林脩己講師は実習で、生徒を動員して土手を切り崩し、モッコで運んで地盤を作る作業を積み重ねてフランス式庭園、イタリア式庭園、イギリス風景式庭園、ロックガーデンを校内に作りました。

同校のフランス式庭園は日比谷公園、新宿御苑、岩崎邸庭園について日本で4番目に古いフランス式庭園となっています。

西洋のものいち早く取り入れる進取の精神と、フランス式庭園、イタリア式庭園などが現在も引き継がれている伝統の力に感銘を受けました。

小林先生には楽しい時間を過ごさせて頂いたことに感謝申し上げます。



試験問題



アカデミック・リンク
(附属図書館松戸分館)



フランス式庭園

10月理事会

(日時) 2023年10月22日(日) 13:00~17:00

(場所) 管理棟

(出席者) 議長(理事長): 萩原

出席者(理事) 上田・徳永・中川(書記)

(顧問) 岡本

1. 審議検討・確認事項

(1) 上半期末収支状況及び下半期の検討課題について

- ・ 上半期末収支状況の確認を実施。
- ・ 年会費入金状況を確認し、未納者5名についての再度の連絡方法を確認。
- ・ 来年度の体制づくり(執行部・各担当他)に向けての協議を実施(継続検討)。
- ・ 未成年会員の年会費等につき、定款第8条の規定に基づき、来年度通常総会の決議に向け、まずは文案を作成。

(2) 今年度のきのか観察会の振り返りと来年度の実施方法等について

- ・ 経理面では、外部講師代のみを手賀沼フォーラムに請求する方向で継続検討。
- ・ 春はファミリー向け、秋は対象年齢を高めて調査を重視、の年2回実施の方向で継続検討。

(3) 北側水路現地確認(10/4)の実施結果の報告について

- ・ 公園緑地課作成の議事録内容を確認。

(4) (10/22(日)、11/4(土)、11/19(日))「里山の保全活動体験会」の実施状況について

- ・ 10/19 現在8名の申込みあり
- ・ 10/22の1回目は5名の参加者があり、反応は良好。

(5) (11/26(日))ワークショップイベント「こんぶくろ池自然博物公園樹名板づくり」の準備状況について

- ・ 募集の 20 名分を超える 30 枚の樹名板を準備済み。T-SITE に申込者数問い合わせ中。
 - ・ 11/4 に来園者向けにイベント開催 PR を実施予定。
- (6) 11～12 月活動計画
- ・ 情報の共有化を実施。
- (7) 11 月の通信記事
- ・ 掲載記事についての協議を実施。

2. 報告事項

- ① J:COM 「虫はともだち」
- ・ 9/26 ロケハン、10/3 本番
 - ・ J:COM 契約者の方は 11 月 4 日 (土) 22:30～
 - ・ 上記以外の方々には下記 2 通りの方法で視聴できます
 - 1) J:COM 提供のスマホアプリ「ど・ろーかる」にて翌日の 11 月 5 日より視聴可能です (ど・ろーかるのホーム画面の一番下で”番組一覧”を選択 ⇒ 番組一覧画面の一番上で”特番・イベント”を選択 ⇒ 特番・イベント画面で”荻野目洋子の虫はともだち # 7”を選択)
 - 2) YouTube にて 11 月 20 日より視聴可能 (“荻野目洋子の虫はともだち”で検索してください)
- ② 東大佐藤先生地の水関係打合せ (9/26) (上田・山上・川瀬)
- ③ 千葉大松戸農学部図書館見学 (10/8) (有志参加)
- ④ 柏の葉公園ウォーキングフェスタ協力 (10/22 10:00～15:00)

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。

編集後記

日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産」登録や、千葉県の「ちば文化資産」選定の反響から、ありがたいことに最近ではテレビ、新聞等で NPO の活動が取り上げられることが増えてきました。

また、里山保全活動体験会においても、若い方々からの体験申し込みも増えており、非常にうれしく思います。

一方で、柏市から公園管理を請け負っている NPO の活動が、多くの方々からの注目を浴びることにもなりますので、これまで以上に利用者目線での、公園整備、公園管理を心がけて活動に取り組んでいきたいと思っております。

この場所は、都市公園とは違い、生態系や生物多様性を守っていく自然博物公園という位置付けであり、その管理においては、明確な答えのない中で迷い、試行錯誤することが多くあります。迷ったときの拠り所は、子どもからお年寄りまで誰もが安心できるか、公共の場においてその方法が望ましいか、そしてその行動がきちんと説明ができるかということにならうかと思っております。

「100 年の森」を目指して、我々の活動を次世代に繋げていくためにも、来園者や近隣の関係者への理解を深めていくことにも務めていきたいと思っております。(萩原秀夫)